

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608479		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	秋田県大仙市戸地谷字川前209番地2		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「感謝・研鑽・共優・共歩」のもとに、家庭的であたたかな雰囲気の中で、日々の暮らしを送ることができるように支援している。共同生活での個別性を大切にして、利用者様同士が関わりを持つことで孤独感のないように努めている。利用者様の体調に合わせて軽運動や、予定している行事に向けてのリズム体操等、日々のレクリエーションを工夫して行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

より家庭に近い雰囲気のホームを目指しており、利用者ができそうなことにはさりげなく見守りながら、本人が希望する暮らし方を自然に取り入れた支援が行われています。ホームの近所は高齢者のみの世帯が多いものの、若い世代の住宅も増えてきており、今後の交流の拡大に向けて町内会を通じた地域交流の取り組みを考えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホール、廊下、事務所等に掲示し常に意識して実践できるようにしている。	家族のように生活できるよう、職員が同じ意識でケアにあたっており、理念の共有化が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域代表として町内会長に出席していただいている。感染症対策として日常的な交流は控えているが、今後は段階的に再開していきたい。	若年世帯の住宅が増えてきていることから、町内会長を通じて交流のきっかけをつくっていくことも検討していきたいと考えています。訪問理由は地域の方に継続してほしいと思っています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を開設し、相談対応できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事、活動状況等を報告し、利用者、家族、地域代表、行政等の方からご意見やご要望を伺いサービスの向上に活かしている。今年度も感染症対策として文書による開催としている。	書面会議が続いていますが、メンバーそれぞれの立場から意見が出されており、運営に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者包括支援センター、市役所担当者等と電話や書面等で情報提供を行っている。	生活保護受給者が入居していることから、福祉事務所とも連携し、本人、家族の支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアル、身体拘束廃止マニュアル等を全職員に周知して、正しく理解できるようにしている。研修を行い理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通じて正しい認識がなされ、職員同士で注意し合いながら業務にあたっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者があり、それぞれの担当者と協力し支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時にホームの概要、サービスの内容、対応等を書面と口頭で十分に説明し理解と納得を得られるよう努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	運営推進会議へご家族代表からご意見、ご感想を書面でいただき、運営に反映できるようにしている。苦情に関しては利用契約時に、外部申し立て機関のあることを説明している。	家族が話しやすいと思える雰囲気づくりを心がけて意見、要望の引き出しに努め、状況に応じて対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月職員会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。代表者は社内アンケートを実施して、職員の処遇改善等に努めている。	職員の意見は管理者を通じて法人に伝えられています。ホームの環境改善や車椅子車両の導入等、職員の意見、提案を取り入れ、運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修の実施、その他の外部研修への参加をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と初回の面接で応談して、困りごと、習慣は毎回伺いをしており、ニーズの求めも確認している。ホームを利用する以前のサービス状況、暮らしの状況からも安心を確保できるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からもニーズを伺うが、環境の変化に対しての心配が多い。主治医の助言を受けながら、チームで対応していることを丁寧に説明して対応している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を行っていただき、できそうな事を見つける観察の習慣をプランにも組み込み、互いにできるだけ気付きを持って関わりを持てるように務めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がご本人に対して、どのような思いでいるのかを確認して、その思いになるべく応えられるように、丁寧にコンタクトをとるほか、意向を確認するように努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	求めに応じてご家族と電話でのやりとりを提供している。月初めにお便りで、ご本人の暮らしぶりをご家族に伝えている。	お便りで日常の様子他に予定を伝えていることもあって受診日に来てくれる家族がいる他、誕生日プレゼントを贈ってくれたり、家族が関係継続のために協力してくれています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室にこもらずに、集団での生活活動を行い、交流できる体制を整えている。どうしても集団に入ることを拒む方もおり、その場合できる範囲で関係支援を行っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に他施設申し込みの支援を求められる場合のほか、ご家族からの相談の求めがあれば都度応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	主治医にご本人の様子を確認していただき、都度状況に合わせ、生活面の助言を受けるほか、ご本人の残存機能も日常生活に活かせるように、ご本人とご家族相互の意向を確認して対応している。	一緒に作業をしながら話を聞くこともあり、利用者の普段の様子から意向の把握に努め、暮らしに反映できるよう取り組んでいます。記録に残し、申し送りで情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは状況の変化、情報の追加も都度確認している。バググラウンド情報の更新も行い、ご本人への対応の参考にできるように努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行っている。情報状況の変化によりフォローアップが必要な時、まずはカンファレンスを行い、その状況をご家族に提供に意向を確認したうえで作成している。	介護計画に沿って記録されており、定期的カンファレンスを行って現状に即した介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	生活の中での暮らし、健康面の変化、ご家族の求めるニーズも含め、ケアプランを基に記録を行い、必要に応じて介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のためインフォーマル支援を受けることは難しいが、状況の改善に応じながら協働の再開の検討は行っている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約前にかかりつけ医について説明を行い、了解を得ている。かかりつけ医等と日頃から相談できる関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医がかかりつけの内科医になっていません。必要時は職員の介助によって通院しており、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況や受診内容、日々の様子等の情報を伝えている。体調変化時は電話連絡等を行い、適切な受診ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関に情報提供を行っている。入院中は病院関係者との情報交換を行い、状態を把握して早期に退院できるように努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に「重度化対応に関する指針」「終末期ケアに関する指針」について、事業所ですることを説明し方針を共有している。利用者の状態に応じ、必要時は関係者で話し合い、チームで支援に取り組んでいる。	態勢が整わないこともあり、ホームでできる支援を入居時に家族に説明し、理解していただいています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して、全職員が周知できるようにしている。看護師から助言をいただき、日頃から実践できるようにしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜想定避難訓練を行い、利用者が避難できる方法を身につけている。水害に対しては、早期からの情報収集に努め、安全確保に努めている。	消防署立ち会いの下で火災時の避難訓練を実施し、適切なアドバイスが得られています。緊急時の避難備品も準備しています。	周辺環境を踏まえて夜間の火災時の協力者の確保、役割分担の確認等、運営推進会議を通じて協力体制の強化を図る取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の個性を尊重して、個々に合わせた声掛けや対応に努めている。耳の聞こえづらい方へは、ジェスチャーをまじえての対応をしている。	それぞれの個性を受け入れ、その人に合った対応を心がけています。急かすことなく、穏やかに接している様子がみられました。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店の出張を利用して、ヘアカット、顔そり等ができるように支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの把握に努め、好まないものに対しては代替品で提供を行っている。ふきんたたみを手伝っていただき、居室で水分補給される方は、カップを下げてくれることもある。	食事は業者に委託し、行事等のイベントに合わせた発注もしています。利用者に提供する際にはその人の機能に合わせ、食べやすいように工夫しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態やその日の体調に合わせて、食事形態を工夫して提供している。食事摂取量は毎食記入して、状態を把握している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや誘導、確認を行っている。磨き残しや義歯洗浄の介助が必要な利用者にはそれぞれ対応し、清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが把握できるように、確認表に記載している。トイレ誘導時はさりげない声掛けを行い、自尊心に配慮している。	自身でトイレに行く方もおりますが、声かけの必要な方もおり、チェック表を活用してその人毎に状況に応じた支援が行われています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事摂取量の確認を行い、便秘の予防に努めている。歩行運動を行うなど、個々に応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態に合わせて、希望に添えるように努めている。利用者の体調によっては、シャワー浴、清拭で対応している。	1日3人を目途に、その時々状況に合わせて週2回入浴できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にレクリエーションを行い、適度な活動を行っている。疲労感の強い利用者へは、顔色や表情を確認して、休息の時間を確保できるようにしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書で確認を行い、理解に努めている。必要時は医療関係者へ相談等を行っている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、レクリエーション後の冊子の片づけ等できる事を続けられるよう支援している。居室で工作している利用者もおり、ホールに作品を飾っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ数年は感染症対策により、外出支援はほとんど行っておらず、冬季間も面会を制限している。来年度からは、外出支援を検討していきたいと考えている。	コロナ禍で制限があったものの、ドライブで季節の花見に出かけています。また、プランターのお世話や散歩等でホームの外に出る機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族との話し合いのもと、立替方式で対応している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視覚から季節を感じられるように、ホーム内の飾りつけを行い、居心地よく過ごせるように工夫をしている。利用者にとって、不快な刺激(特に大きな物音)がないように配慮している。	利用者の行動に合わせて換気の時間をつくり、快適な空間となるよう努めています。掃除が行き届いている印象があり、玄関等にさりげなく季節の飾りつけがされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを配置して、思い思いに過ごすことができるようにしている。以前はテーブル席を男性と女性で混ぜていたが、女性に対して威圧的な様子がみられるようになり、現在は同性同士にしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や誕生日のメッセージカード等を身近に置き、居心地よく過ごせるようにしている。何かほしいものの希望があるときは、ご家族へ連絡して購入することもある。	居室も清潔に管理されており、備品の設置にも利用者の使いやすさに配慮しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープの設置、浴室に滑り止めマット等を使用して、ホーム内は段差をなくし安全な環境のもと生活できるように努めている。		